



1月企画に18名参加

1月16日に開催された大橋一夫副支部長による講演会「世界遺産の旅」には18名が参加しました。

前半の映画上映では、中国の世界遺産「兵馬俑」などの紹介。後半は渡航歴150回の講師による「中国という国」についての講義でした。

中国の世界遺産は文化遺産36件、自然遺産13件、複合遺産4件の計53件が登録され、「新幹線路線」も中国が最長、「自動車販売台数」の伸びも凄まじく、10年前に自転車通勤していた知人の課長さんが今では車通勤になったそうです。



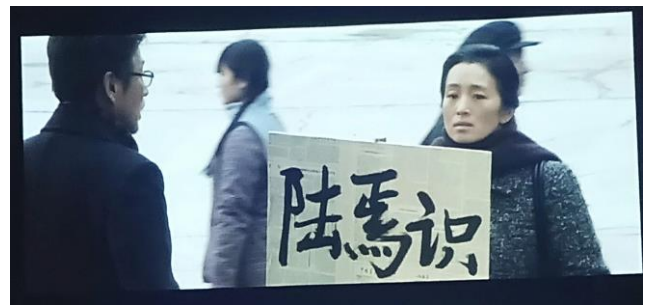
この他にも中華料理には「辛さ」が4種類あり、1種類しかない日本とは食文化の差を感じるというコメントもありました。

映画「妻への家路」に涙

隔月例の中国映画上映会では2月4日午後「妻への家路」(2014年・原題: 帰来) を上映。

張芸謀(チャン・イーモウ)監督が「生きる」「サンザシの樹の下で」に次いで文化大革命を題材として制作した映画に18名の参加者は心を洗われました。

主演の鞏俐(コン・リー)が文化大革命で引き裂かれ、衝撃と極度のストレスで夫の記憶だけを失うという難役を熱演。



上映後、岡崎雄兒さんによる解説があり、1966年から10年間続いた文化大革命が中国の停滞、国民の深刻な分裂をもたらしたことが述べられました。観客の年齢層は当時のことを知っている年代が多く、内容理解が深まったようです。

<中国映画上映会予告>

シヨンヤンの酒家(みせ)

4月8日(月)

午後1時30分~(2時間)

藤沢市役所 本庁舎5階 第3会議室

資料代300円

都市開発の波が打ち寄せる中国・重慶の街中で、かろうじて現状を保ち続ける昔ながらの屋台街。その一軒を構えるバツイチの女性シヨンヤン(タオ・ホン)の酒家(みせ)は名物“鴨の首”を売りに毎夜のごとく繁盛していた。店では明るいシヨンヤンだが、家族のことで色々な悩みを抱えていた。母は彼女の幼い頃に亡くなり、父は京劇女優と恋仲になった末に家を出た。さらに兄夫婦は



家庭崩壊の危機にあり、母代わりとなって育てた弟は薬物中毒で更生施設に入っている。そんなシヨンヤンは、いつしか常連客の男と惹かれ合っていく。

ニエ・アル記念広場 清掃活動

3月4日(月) 午前11時～

※毎月第一月曜日に、有志が、中華人民共和国の国歌「義勇軍行進曲」の作曲者である聶耳（ニエ・アル）の慰霊記念碑のある広場を清掃しています。聶耳は1935年7月17日に、遊泳中、鵜沼海岸で亡くなりました。
※小田急線・鵜沼海岸駅下車・徒歩7分
※どなたでも、手ぶらで参加できます。

「会費前納のお願い」

平素は「日中友好新聞」をご購読いただき、誠にありがとうございます。

これまで後納だった会費を事務の都合上、今年度より前納とさせて頂きたく、以前より早目に請求書を発送させていただきます。

また、1年間まとめたのお支払いも可能でございます。何卒ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

湘南支部ホームページ

日本中国友好協会湘南支部のホームページには行事予定やこれまでの活動など多彩な記事がアップされています。ぜひご覧ください。

<http://nicchushounan.sakura.ne.jp/index.htm>

*「日中友好協会湘南支部」でも検索できます。

※湘南支部ホームページでは1面記載の大西広先生講演会の詳細を記事と音源で提供していません。ぜひ、アクセスしてください。

講演会企画 「中国は敵なのか

—いまこそ平和友好関係の構築を—

★日時：3月4日(月) 13:30～15:30

★会場：藤沢市役所本庁舎(5階第3会議室)

★資料代：300円

いま日中関係は政府間において回復基調にあると言われています。しかしわが国メディアでは中国といえば、歴史問題や領土問題、人権問題などをことさら強調して取り上げています。その結果、多くの国民の対中感情は依然悪いままです。

このような状況をどう考えたらよいのか。また当面の米中貿易戦争は日中関係にどのような影響を与えるのでしょうか。長年、中国を見つめてきた講師にこれらの問題について平易に解説してもらいます。

★講師：岡崎雄児

1944年生まれ。対中国貿易団体で調査編集部長、北京事務所長など。退職後、山形・岐阜の大学で教員。著者に『神奈川の中の中国』（東方書店）、『最新中国を知るキーワード』（同学社）、『歌で革命に挑んだ男』（新評論）。共著に『日中交流の四半世紀』（東洋経済新報社）、『日中関係史・民間』（東京大学出版会）など。

